



令和3年3月31日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

長崎 都・道・府・ 		
カリキュラム開発拠点校	管理機関名	設置者の別
長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校	長崎県教育委員会	国・  ・私

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

カリキュラム開発拠点校	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
長崎県立長崎東中学校・ 長崎東高等学校	http://www.news.ed.jp/higashi-h/21wwl/wr/wwlr2.pdf	http://www.news.ed.jp/higashi-h/21wwl/wr/wwlr2.pdf

※結果公表に関する情報について、ウェブ上で公開している場合は公開しているウェブページの URL を記入すること。ウェブ以外で公開している場合は、公開している情報を閲覧できる場所・方法を適宜記入すること。

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

IGR(Integrated Global Research) : 統合型グローバル探究 (週1単位)

高校1年次に開講し、文理を融合し複数の学問分野や多文化の視点、およびSDGsの視点から社会課題にアプローチし解決を図るための手法を体系的に学ぶ。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

江戸時代に諸科学の発信地となり、第2次世界大戦の惨禍から復興を成し遂げた長崎の教育資源を活用し、予測困難な時代において複数の視点や学問分野を融合させて、様々な社会問題に取り組むため。また、長崎大学等の地元大学や地場企業と連携し、高度な学びを推進するため。

(3) 特例の適用開始日

令和2年4月1日

(4) 取組の期間

令和5年3月31日まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 計画通り実施できている <input type="radio"/> 一部、計画通り実施できていない <input type="radio"/> ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

なし

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

拠点校の学校スローガンは、拠点校の卒業生で文芸評論家の故山本健吉氏が残した「ともによき世を創る」であり、教育目標の「高い国際的教養を身に付けたグローバル人材の育成を目指すこと」に関係する。

実施効果として、各教科の授業で探究スキルを育成する「探究ベーシック」の時間を新たに設定できたことがあげられる。これによって、IGR や総合的な学習の時間との連動性が高まり、教科横断的な取り組みにつながった。中高全教員に実施した自己評価項目では、授業改善に取り組んだ教員の割合が 97.4%、ICT 機器を効果的に活用している教員の割合は 88.2%、公開授業を実施した教員の割合が 88.2%であった。

一方、特別の教育課程を実施している高校 1 年生に実施した自己評価（令和 3 年 1 月 14 日実施、回答率 98.2%）では、「将来グローバルリーダーとして活躍したいと思っている」生徒は学校目標値 60%に届かなかったが、卒業次には目標値を達成したい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校教育法第 5 1 条の三、「個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養う。」に関連して、歴史や文化の重要なクロスロードに位置した長崎から、新たな価値を創出できるグローバル人材を育成する。

ベネッセコーポレーションが実施している GPS テストでは、批判的思考力や協働的思考力における A 評価（高校卒業程度）以上の高校 1 年生の割合がそれぞれ 35%と 39%であった。本テストは平成 28 年度から 5 年間実施しているが、批判的思考力は過去 5 年間で最も高く、協働的思考力は 2 番目に高い結果であった。

IGR や総合的な学習の時間を中心に 140 を超える企業や NGO と課題研究に関する連携や講演会を実施した結果、「主体的に社会の参画を目指している」という自己評価項目に肯定的な回答をした高 1 生徒の割合は 73.6%であった。高校全生徒の集計ではあるものの、H29 は 48.9%、H30 は 45.7%、R1 は 54.1%であったことから、かなり高い有意差であると結論づけられる。

課題としては、GPS テストで測定する創造的思考力における A 評価以上の高校 1 年生

の割合が21%であり、目標とする35%には届かなかった。

5. 課題の改善のための取組の方向性

本年度、高校1、2年生では海外とのオンライン交流を複数回実施し、共同研究が評価され世界最大の経済教育団体ジュニアアチーブメント主催の国際コンテスト(TTBiz)で4位入賞することができた。また中学では、交流相手を確保することが困難であり、海外との交流を実施することができなかった。グローバルリーダーとして活躍したい生徒を増やすために、オンラインによる交流プログラムや留学生とのグローバルリーダープログラムが有効であると考えます。さらに、グローバルリーダーによる講話を複数回開催することで、ロールモデルを構築したい。すでに令和3年3月29日から3月31日にかけて実施する「ハワイ平和探究プログラム」を株式会社LbEJapanと共同開発中である。中高約50名が留学生リーダーによるオンライン交流プログラムに参加予定である。平和を軸とした国際会議開催に向けて、生徒による実行委員会を立ち上げ、ハワイ、オランダ、ベトナム、中国、韓国等の高校生との交流を増やしたい。